

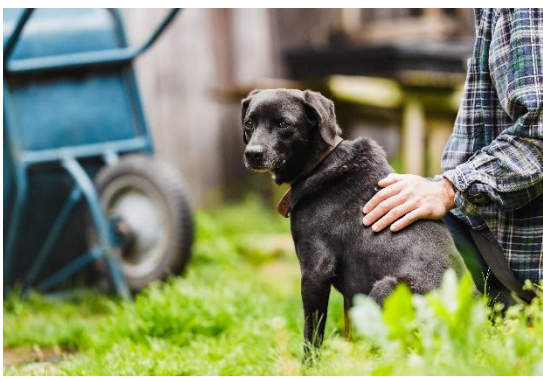
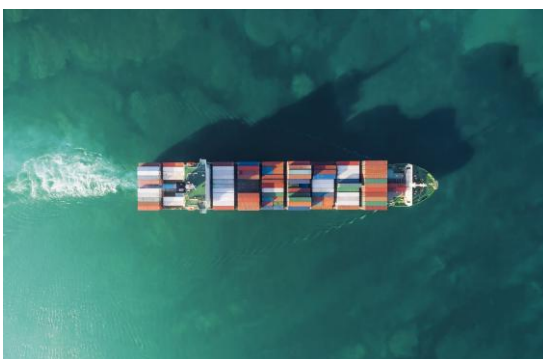
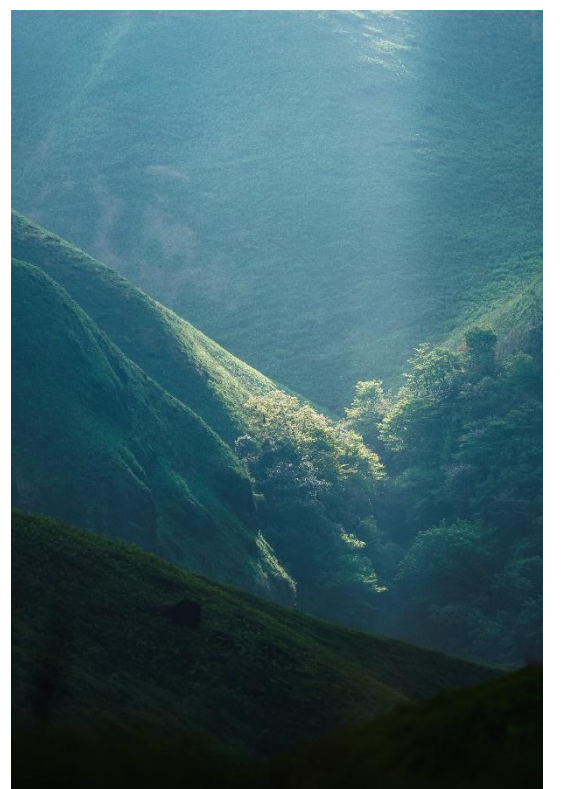


農林中央金庫

農林水産業・食品分野のGX技術の事業化・ 海外展開を支える金融の役割

2026年9月

農林中央金庫
経営企画部 部長
野田 治男



農林中央金庫のご紹介 農林水産業・企業、そして自然との密接なつながり

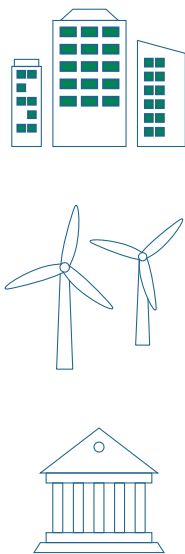
農林中央金庫（以下、農林中金）は、農林水産業・企業と密接なネットワークを持っているユニークな金融機関

投融资先（バランスシートの左側）

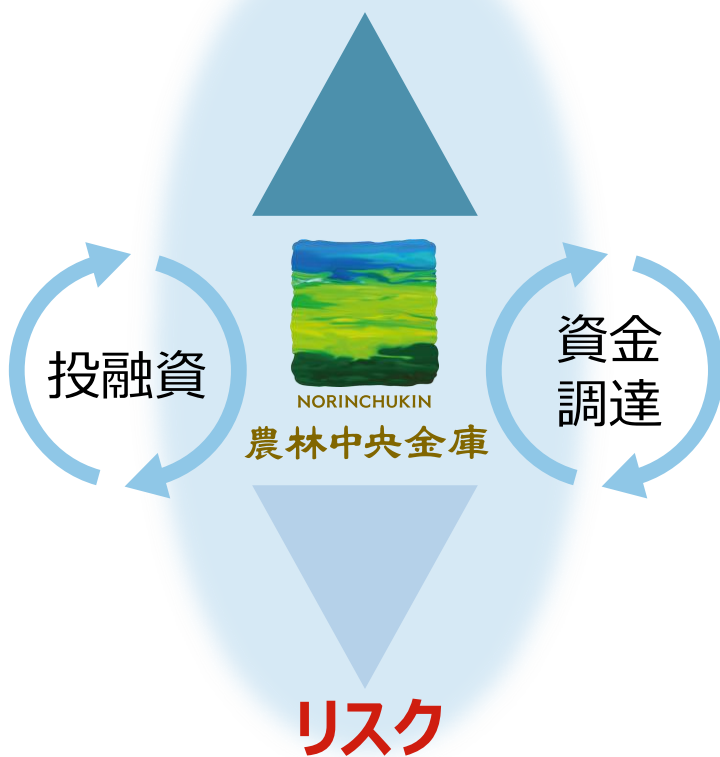
グループ全体の
国内外での投融资等により、

国内外大手から
地場企業・農林水産業者・
スタートアップまでの
幅広い取引ネットワーク

1,700社以上



機会



リスク

資本・資金調達先（バランスシートの右側）

出資者（会員）



農協（JA）、漁協（JF）、森林組合（JForest）および連合会等

約3,000団体

組合員（農林水産業者等）



JA 約1,000万人

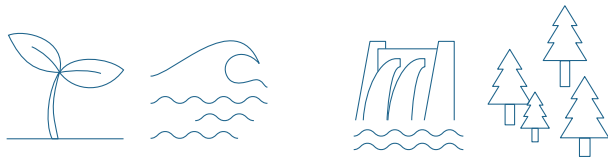
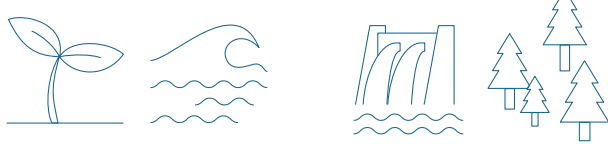
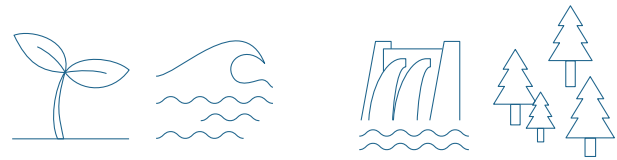
JF 約25万人

JForest 約145万人

かかわり

自然や気候（経済社会の基盤）

かかわり

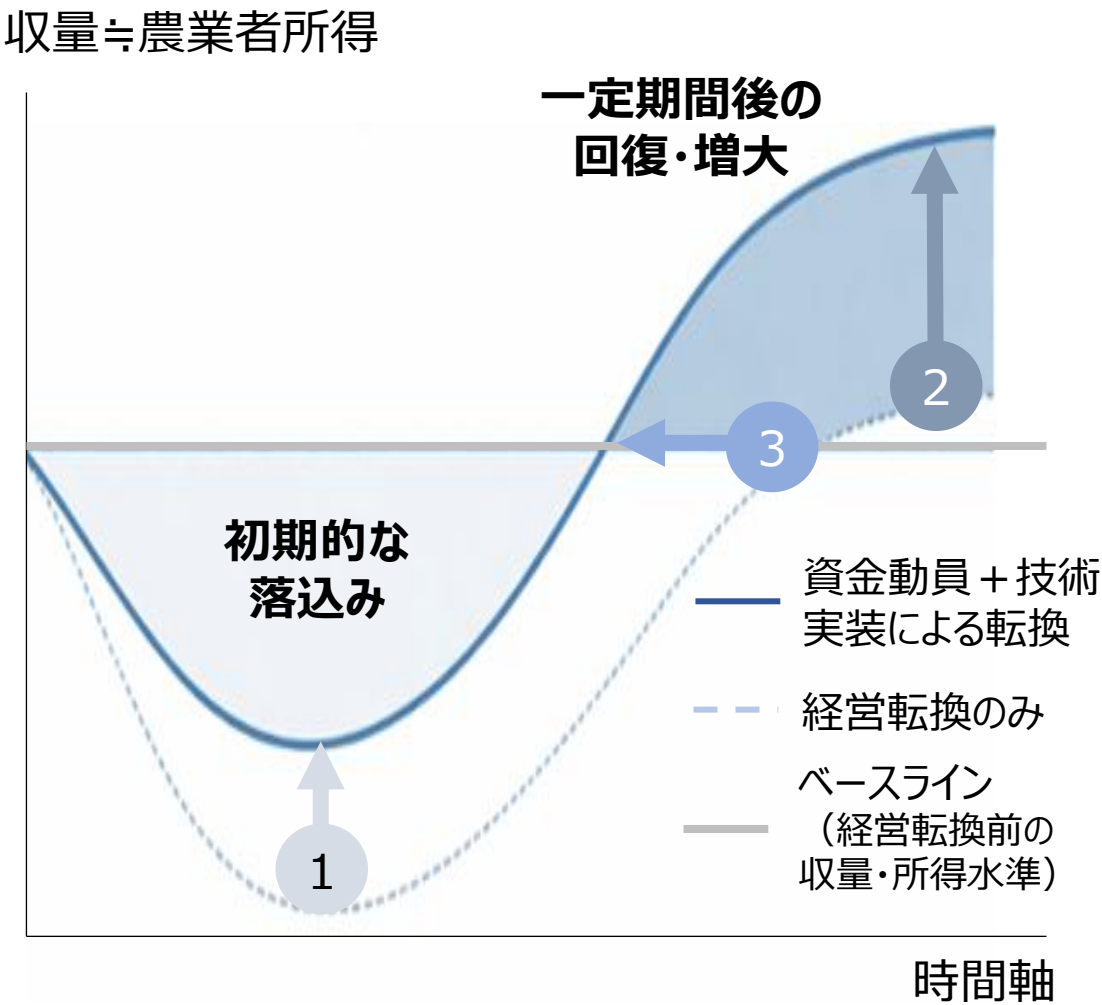


注：数値は2026年3月末現在

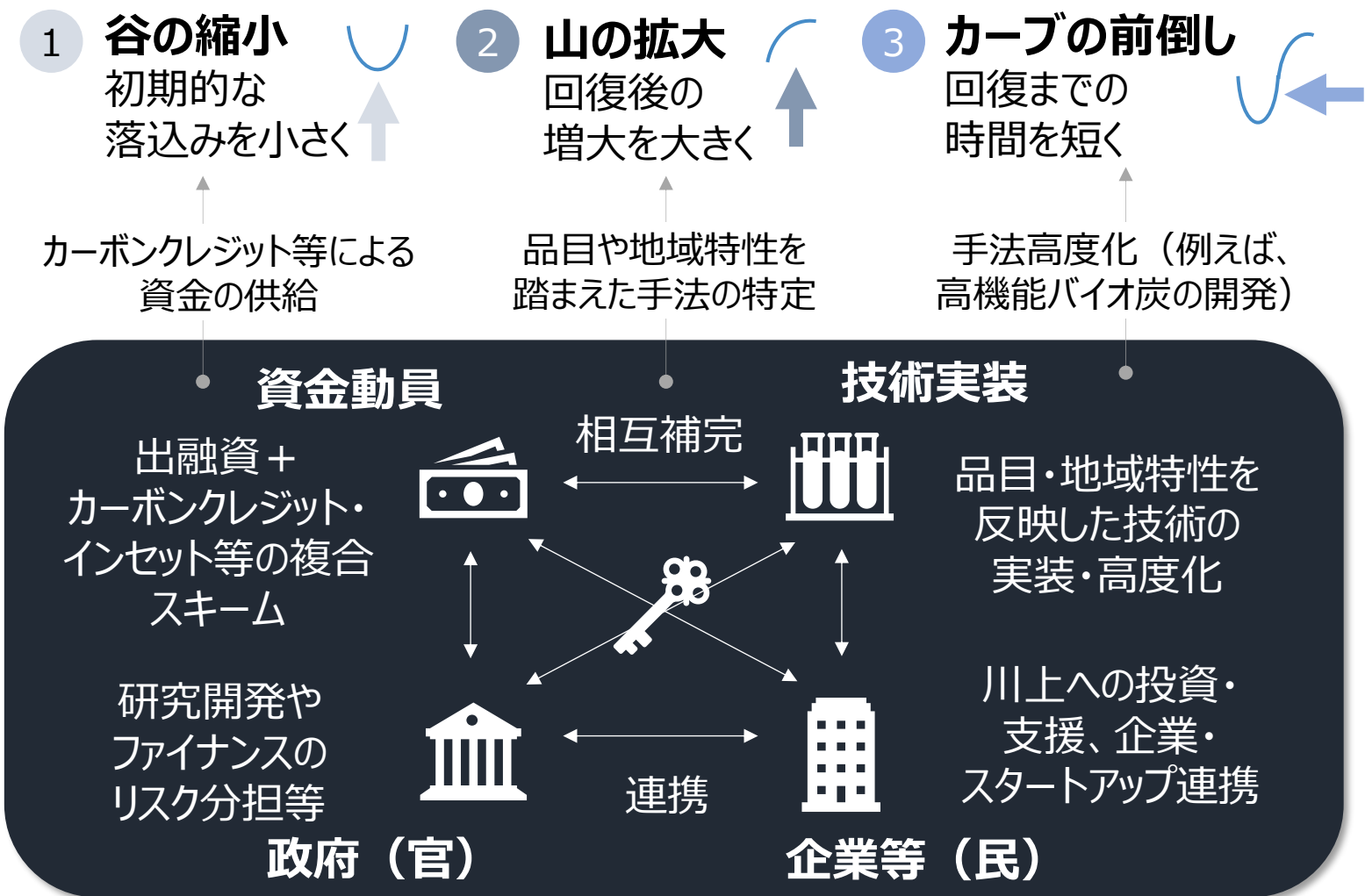
情勢認識 持続可能な農林水産業への転換に向けたJカーブと改善の鍵

持続可能な農業経営に転換するハードルとして、収量の低下や導入時にコストが先行する等の課題（いわゆる「Jカーブ」）があり、「資金動員」「技術実装」と両者にかかる「官民連携」がその課題解決の鍵となる

環境調和型への転換によるJカーブ（イメージ）

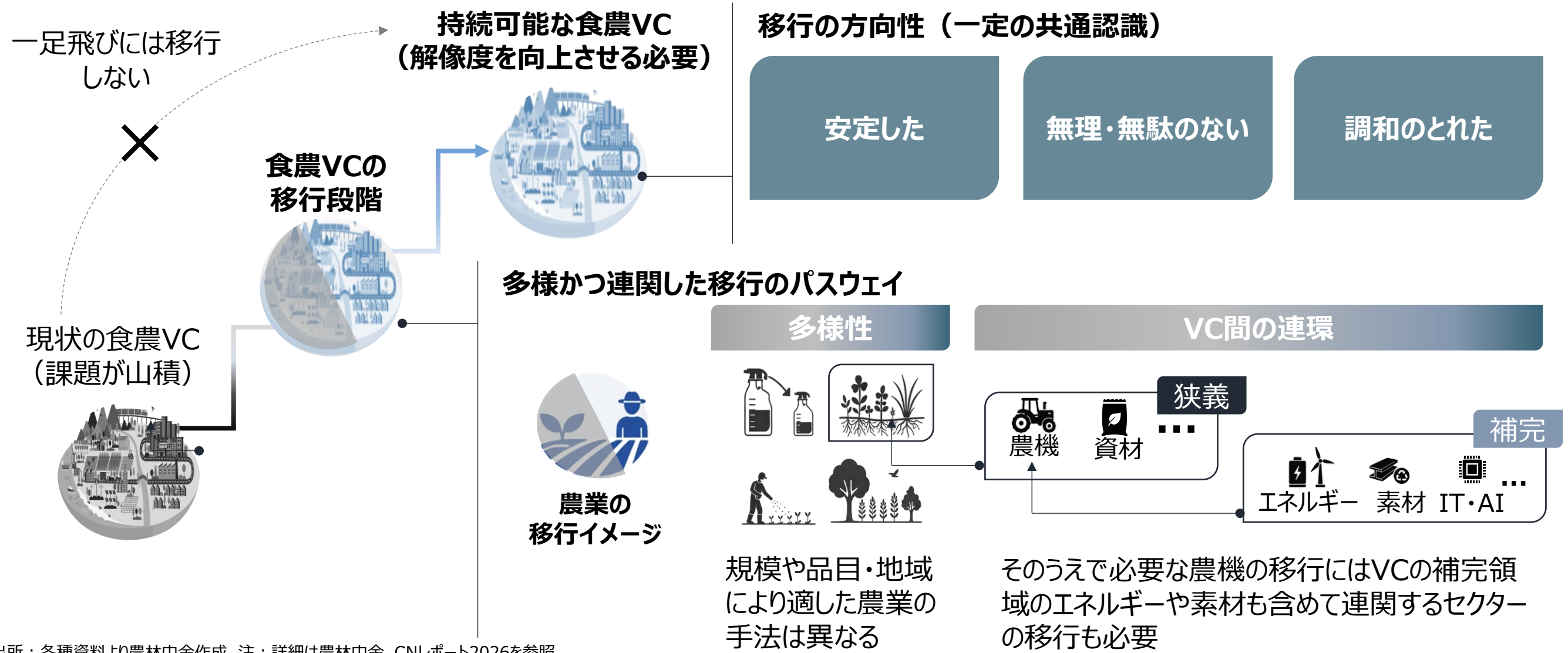


改善要素とそのための鍵＝資金×技術×官民連携



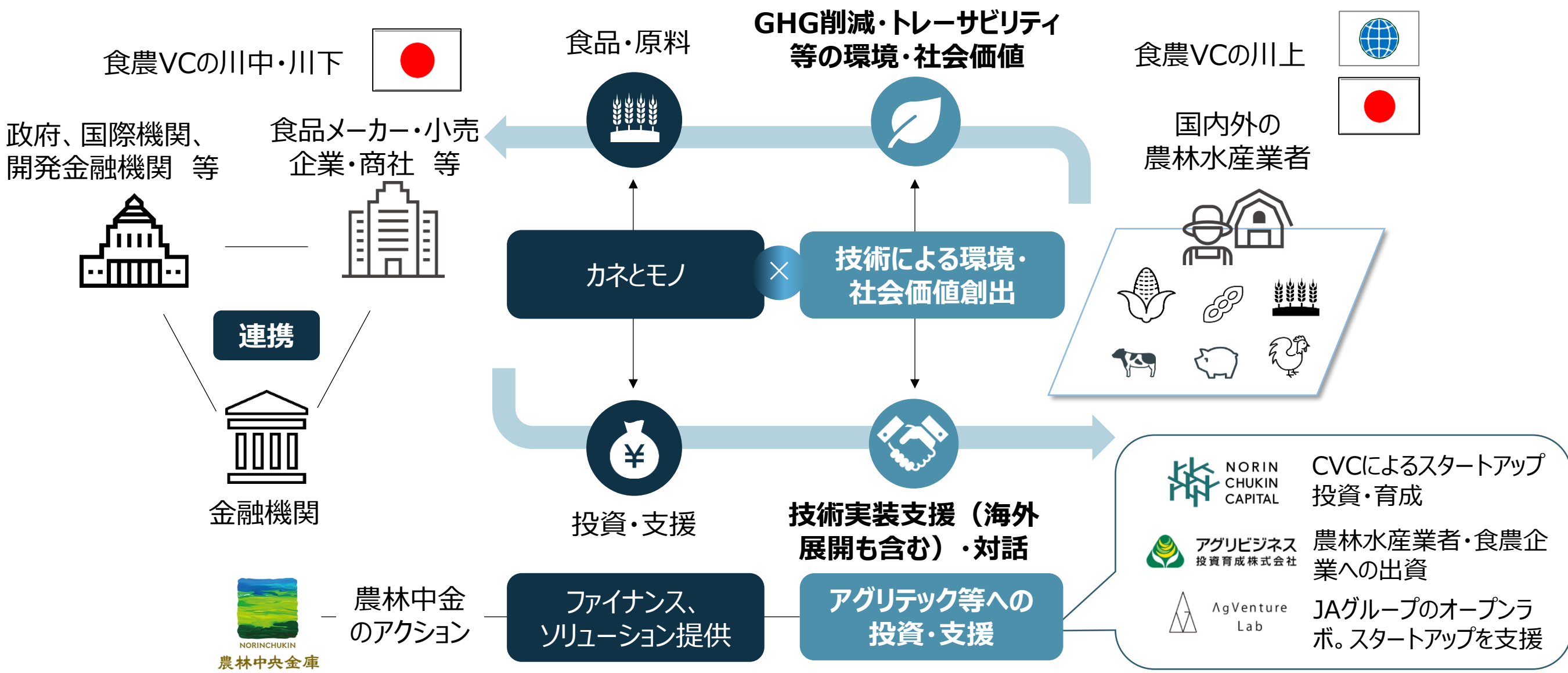
出所：各種資料より農林中金作成 注：Jカーブの発現は傾向的なものであり、品目や地域、気候・土壌等の状態により発現の有無、程度は異なるといわれている（必ず落込みが発生するわけではない）

規模や品目・地域により適した農林水産業の手法は異なる。そのうえで、例えば必要な農機の移行にはエネルギーや素材も含めて連関するセクターの移行も必要。こうした**セクターごとの多様性や連関を意識することが重要となる**



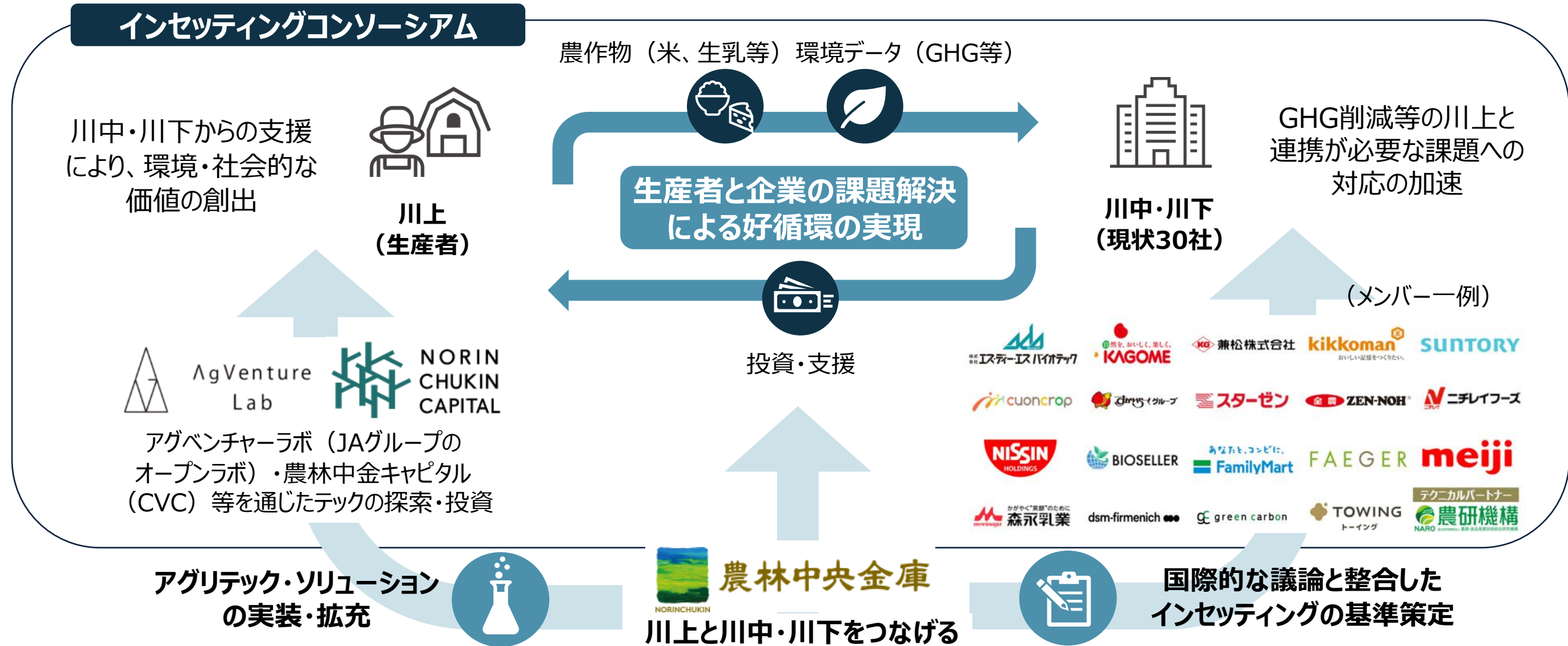
出所：各種資料より農林中金作成 注：詳細は農林中金 CNレポート2026を参照

“カネ”を出して、“モノ”を買うという考え方は通用しない世界となりつつある中で、官民が連携して、海外も含めた川上（農林水産業）への投資・支援と技術実装を図る必要。農林中金としても様々なステークホルダーとの連携の中でこれらを後押しする



農林中央金庫の対応事例 インセッティングコンソーシアムの設立

インセッティングコンソーシアムは、川上（生産者）と川中・川下（食品関連企業）をつなぎ、生産者所得の向上、バリューチェーン全体のカーボンニュートラル、ネイチャーポジティブへの移行（トランジション）を目指す枠組み



出所：各種資料より農林中金作成 注：インセッティングは、企業が自社のVC上での間接的な GHG 排出（Scope3）の削減に向けて、VC上で投資や支援を行うことで、VC全体でGHG削減等の環境価値の創出を企図する概念

Climate & Nature Report2026を当金庫 HPにて公開中



アクセスはこちらから



本日お伝えしたかったこと（まとめ）

- 持続可能な農林水産業への転換に伴うJカーブをクリアするために、官民（ステークホルダー）連携、資金動員、技術実装は不可欠。
- 技術実装は、セクターごとの多様性や連関を踏まえていく必要。
- 日本の食農バリューチェーンは、国内のみならず、国外での持続可能性の向上なくして成り立たない。
- 農林中金は国内外での技術実装等に向けてグループ一体となった機能発揮、ビジネス展開を今後も志向。
- インセッティングコンソーシアムは、農林水産業と企業を結び付け、カーボンニュートラルやネイチャーポジティブに資する技術の実装や企業における活用、基準の検討等を推進。